

## 令和元年度 第2回仙台市景観総合審議会 議事録

日 時 令和元年12月2日(月) 午後1:30~3:30  
会 場 仙台市戦災復興記念館5階 会議室  
出席委員 稲葉 雅子委員、小林 淑子委員、菅原 正和委員、  
杉山 朗子委員、杼窪 昌之委員、馬場たまき委員、  
舟引 敏明委員、不破 正仁委員、堀 繁 委員、  
巖 爽 委員、吉川 由美委員  
仙 台 市 都市整備局長、細井次長、八木次長、総務課長、計画部長  
事 務 局 都市整備局計画部都市景観課

### 【議事】

1. 開 会
2. 都市整備局長挨拶
3. 会長挨拶
4. 事務局からの報告
5. 議 事  
    <審議事項>  
    ・今後の景観施策のあり方について  
    (景観施策の見直しの方向性について)
6. 閉 会

### 【議事録】

1. 開会  
    司会 ・ただいまより、令和元年度第2回景観総合審議会を開催いたします。  
          (配布資料確認)
2. 都市整備局長挨拶  
    司会 ・開会に当たりまして、都市整備局長の小野よりご挨拶を申し上げます。  
  
    都市整備局長 ・(局長挨拶)
3. 会長挨拶  
    司会 ・続きまして、堀会長、ご挨拶をお願いいたします。  
  
    堀会長 ・(堀会長挨拶)

司会 ・ 仙台市議会からの委員の改選がございまして、新たに菅原様が審議会委員となっております。今回が初めての参加でございますので、菅原委員より一言ご挨拶をお願いいたします。

菅原委員 ・ (菅原委員挨拶)

#### 4. 事務局からの報告

司会 ・ 前回の審議会以降の報告です。  
・ 第1回屋外広告物部会を8月9日に開催しております。議事は、屋外広告物ガイドラインの検討についてです。現在の屋外広告物条例における規制の体系の確認や、ガイドラインの位置づけ、活用方法などについてご意見をいただきました。

#### 5. 議事 今後の景観施策のあり方について（景観施策の見直しの方向性について）

司会 ・ 本日の出席状況ですが、高山委員、武山委員よりご欠席の連絡を頂戴しており、委員13名中11名の出席となりますので、仙台市景観法等の施行に関する規則の規定により、会議は成立しております。

堀会長 ・ 議事に入る前に、今回の議事録の署名ですが、私と馬場委員にお願いしたいと思います。どうぞよろしくをお願いいたします。  
・ 本日の審議事項は、今後の景観施策のあり方について（景観施策の見直しの方向性について）の1点です。  
・ 前回の審議会では、評価検証から得られた今後の課題、また目指していく街の姿について事務局より説明をいただき、皆様からご意見をいただきました。いろいろとご意見はありましたが、目指している方向性につきましては共有いただいたところかと存じます。最終的には審議会からの提言書という形でまとめるという点につきましても、皆様から了承をいただいたところですので、今回は施策の見直しの方向性や提言書のことにつきまして、ご意見ををお願いいたします。

事務局 ・ (資料説明)

堀会長 ・ 今の説明につきまして、委員の皆様からのご質問、ご意見等を承りたいと思います。

- 不破委員
- ・ 審議会の発言としては本質的には、ずれているような気がしますが、とても重要なことだと思うので先に触れておきたいと思います。
  - ・ 事務局の説明より、都心部に集中した議論であり、都心部により力を入れていくことに決めたのだということは理解しました。
  - ・ それを目指していくことはとても大事なことだと思います。ただ、ここで議論をしているのは、仙台市の景観施策についてです。郊外や豊かな農村部に暮らしている方々、もしくはそういったものの景観は、仙台の景観という中に入っていないのでしょうか。
  - ・ 例えば、提言書の「はじめに」の文章の中に、仙台が抱える豊かな農村や郊外の里山なども包含しているのだというようなことも文言で触れつつ、それらのことにも思慮深く考えていくべきなのではないのでしょうか。
- 堀会長
- ・ 仙台全体への配慮というのが前提にあって、初めて中心部の話が定まってくるというご意見です。配慮いただければと思います。
- 巖委員
- ・ 質問が2点ほどあります。質問1点目は、定禅寺通のことについてです。最近になり、定禅寺通の沿道側が景観的に重要な場所として、活発で良い試みが実施されていますが、その活動主体や市の関わりについて教えてください。
  - ・ また、そのような試みが実験的に短期間で開催されるのではなく、常設になるのが理想的であると感じておりますが、将来的にどのようなビジョンで考えていますでしょうか。
  - ・ 次に、質問2です。ここで発言すべきか少し躊躇しますが、忌憚のないご意見をということでしたので、質問いたします。
  - ・ 質問は、最近、関心事となっているエレクトロンホール宮城と宮城県美術館の移転問題のことについてです。いずれも県有施設ではありますが、仙台市にある施設です。例えば、宮城県美術館の場所は、仙台の都市計画上、文教地区に建てられたという経緯があり、それが今、移転・建て替えという、非常に唐突な話であると感じておりますし、同意見の市民もおそらく多いのではないかと思います。
  - ・ エレクトロンホール宮城も、せんだいメディアテークと同様、定禅寺通にとって文化的で重要な役割を果たしている施設です。エレクトロンホール宮城が移転してしまうと、定禅寺通の人の流れも変わるし、通り自体の文化的意味合いも変わってしまいます。
  - ・ 市はどのような姿勢で関わるのでしょうか。また、決定事項で変えられないのであれば、仙台市としての姿勢を示すこと、記録として残すこと

が重要だと思いますが、それが可能なのでしょうか。

細井次長 ・定禅寺通の件で言いますと、定禅寺通の活性化ということの一つテーマに、昨年度、仙台市と商工会議所が事務局になり、定禅寺通活性化協議会を立ち上げています。

・10月の下旬に3日間ほど開催したイベントは、定禅寺通活性化協議会が主催し、それに仙台市も関わるような形で実施したものと理解をしております。まちの中を見たときに、駅前に人が集まっているという現状を受け、回遊性を高めるために、定禅寺通を一つの核として今後どのようにすれば良いかということ、官民挙げて一緒に検討しているところです。

巖委員 ・検討していく中で、今後どうするかという方向性を、市も関わって一緒に考えていくということでしょうか。

細井次長 ・そういう点においては市もしっかり関わってやっているということです。

巖委員 ・わかりました。

小野局長 ・エレクトロンホール宮城と宮城県美術館の移転に関する問題についてです。県の方で本題の検討を正式に行っており、県有施設の今後のあり方を考える会議の中で、今後のあり方の一つの案として、今の医療センター跡地にエレクトロンホール宮城が移転するという話に加え、宮城県美術館の移転集約という考え方が初めて案として示されたと聞いております。

・市民や県民への示し方については、これまでも県の中でも様々な議論があったとお伺いしております。集約化に関して、正式に手続きを進めていく段階になった時には、改めてそれぞれの県有施設のあり方、集約の是非について、市民・県民の意見を聞くというようには伺っております。

・それから、都市計画との関係ですが、宮城県美術館の立地している場所は文教地区ではありますが、文教地区にどのような施設を立地・誘導させるのかといったところまで、都市計画マスタープラン等で定めているというものではありません。東北大学の川内キャンパスを中心とした、閑静な教育環境が整うようにというのが最大の主眼であるかと思っております。その中で、仮に移転をするとした場合には、跡地の利活用というところについて当然最大限の注意を払っていく必要があると考えてお

りますし、地下鉄東西線の国際センター駅の周辺施設ともどのような関係性を持つかについては、仙台市あるいは市民の方々からもご意見を頂戴するような機会があるのではないかと思います。

- ・それから、移転先での集約化についてです。移転先については、今は都市計画上の特別な位置づけというものは全くない場所です。県のこれからの議論の動向なども踏まえながら、これから総合計画、あるいは都市計画マスタープランの中で、位置づけをしていく必要があるのかどうかというところも含めて、議論をしていく必要があると考えております。現在の用途地域や、都市計画の制限上、移転が可能な場所ですので、都市計画上ふさわしくない、或いは立地できないという話にはならないかと思うのですが、改めてその施設の内容等を含めて、今後の議論、検討となるだろうと思っています。

- 厳委員
- ・ありがとうございます。仙台市にとっても非常に大事な問題ですし、それこそ定禅寺通の回遊性などにも関連しますので、ぜひこれについて議論してほしいです。可能であれば何らかの意見を出させていただきたいと思っています。
  - ・続けてコメントが2点ほどあります。
  - ・コメントの1点目ですが、資料の中に、人にやさしいということをしっかり赤字で示していただいて、良いかと思います。今、世界的な傾向というのは、環境問題をどう考えていくかということです。環境に優しいというのが具体的な言葉のように聞こえるかもしれないのですが、しかし、地球温暖化はどんどん進んでいます。民間は目の前の利益重視になってしまいますので、公共から自然エネルギーを使用する等のビジョンをしっかり位置づけていただきたいと思います。
  - ・コメントの2点目です。実現のための取り組みも示されてはいますが、景観計画の見直しなど紙面上の話に留まっているように聞こえます。例えば、最近、非常に話題になっている豊島区の南池袋公園は、区が公園を主導的にきれいにし、それが全国的に知られるようになった事例です。民間への支援・サポートなど民間に期待するだけでなく、市として、行政主導で何か一つここからやれたらいいと思います。

- 堀会長
- ・意見ということでよろしいでしょうか。他にいかがでしょうか。

- 杉山委員
- ・質問3点です。1点目は、地域の景観のシンボルとなる建築物等の保全についてです。現在指定している杜の都景観重要建造物等を実際に見学

してきましたが、いずれも市の中心部から少し離れたところにあります。3つのシンボルロードは、街並みとしては、3階くらいまでの低層部について心遣いがあり、私の専門である色彩についても並木との調和は、考えていらっしゃると感じております。ただ、それは現代のビルで、そういったものを応援していく、あるいは修理保全していくということとは違うと感じております。これまでの街道筋の景観保全も含めてお考えであれば、とてもいい案だと思いますが、中心部に着目するのであればギャップがあると思っております。シンボルロードで建築物を保全していくという考えがあるのでしょうか。

- 2点目は、屋外広告物のガイドラインについてです。割と中心部の屋外広告物は考えていらっしゃるだろうと思ったりしていますので、中心部ではそれをより一層、通り同士で配慮していくというようなことを考えればいいのではないかと考えています。ただ、今回の議論の途中で、郊外部の屋外広告物についても課題があると書かれていましたので、中心部と郊外というものについて、屋外広告物ガイドラインはどう出したらいいのかと考えております。
- 3点目は、たまり場をつくれる通りについてです。例えば大丸有という東京の事例は、私もたまに伺っても楽しいと感じますが、仙台の中でたまり場をつくれる通りについて考えますと、道路幅の問題もありますが、少し中に入った路地に、何かそういうものがあるのではないかと思います。それから縦の晩翠通や国分町通りなど、3本のシンボルロード以外の通りも活用しながら活性化をするのがいいのではないのでしょうか。
- ベンチの置き方なども、例えばこの辺がいいねという、場所の選定等のワークショップを事前に行い、本当に置いてみるなど、具体的なワークショップをいろいろ実施してみればいいのではないかと考えています。画期的な先行事例として、松山のほうでは長い時間をかけ、車線を減らして歩道を広くし、マルシェが開けるぐらいにしたというお話を聞きました。道幅、歩道幅というのが、こういうところでは重要なのではないかと考えていますので、仙台市でどこまでやるお考えなのか、お聞かせいただきたいです。
- 都心部に力を入れてやっていこうという方針と、中心部と郊外部の混ざり合った施策の関連性を伺いたいと思います。

計画部長 ・ 屋外広告物ガイドライン、杜の都景観重要建造物等の活用等については、都心部に限ったものではなく、郊外部も含めて、市全体で考えていかなければいけない問題だと思っておりますし、これまで市全体で実施して

きた景観施策は、もちろんこれからも継続して重要視していかなければいけないと考えております。現在の施策に、さらに都心に着目した施策を加える形、もう少し都心を考えていこうというのが、今回の取り組みになると考えております。

- ・屋外広告物は、杉山委員がおっしゃったように、どちらかと言うと中心部よりは郊外部で配慮が必要だと思われるものも結構ございますので、ガイドラインのようなものを作成し、改善の余地を探っていくところなのかなと理解しています。
- ・杜の都景観重要建造物等につきましても、中心部は戦災で焼けてしまい、古い建築物がほとんど残っていないという状況の中で、都心部から少し離れたところで昔ながらの建築物を保存していこうという取り組みを今までやってきました。そういった建築物を指定してきた中で、今後さらにどのようなものを仙台のまちの中で保存していくべきなのか。建築物だけではなく、また別な着眼点で残すべきものがあるのではないかとということも含めて、改めて検証していくべきだろうと考えているところです。
- ・次に、路地空間の話です。シンボルロードである定禅寺通、青葉通、宮城野通は、今までも様々な施策の中で、きれいな街並みにしていこうという取り組みは当然やってきましたし、これからも強化していくべき視点だと思っております。
- ・一方で、少し入った路地については、確かに道路幅の問題や、道路占有の関係など、様々なハードルはあるものの、まちづくり活動をしている団体の中には、そのような路地に面した建物や道路に着目して、様々な活動を行っているという事例も出てきています。我々としてはそういった活動を支援していきながら、路地の魅力づけをあわせてやっていきたいと考えております。それが景観として何かできるのかというところはまだ回答を見出していないところではありますが、そういったところもおろそかにせずに取り組んでいき、都心部全体を大きな通りだけではなく、路地も含めて回遊性を高められるようにしていきたいと考えています。

杉山委員 ・ありがとうございます。

堀会長 ・他にいかがでしょうか。

杼窪委員 ・先ほどから定禅寺通、青葉通、宮城野通という話になっているのですが、

果たして3つの通りだけでいいものでしょうか。人々はどちらかという  
とアカデミックな雰囲気弱いので、東北大学の片平キャンパス付近、  
あの周辺をうまく変えていけばいいのではないかと思います。

- ・景観施策ということで考えれば、とにかく電信柱をなくせば良いのでは  
ないかという点が、この片平にも当てはまります。片平から青葉山を見  
れば、仙台の自然が感じられますが、残念ながら、仙台城跡の石垣の下  
に文化財があるということで、櫓もつくらないということに決まりました。  
しかし、それも逆に見る側からすれば、そういう景観も必要なのでは  
ないかと私は常々思っています。

堀会長 ・他にいかがでしょうか。

- 吉川委員
- ・先ほど、人にやさしくという点がいいという話がありましたが、そこにつ  
いて2点意見を述べさせていただきます。
  - ・まず、今までこの審議会で議論してきたことが、このプランの中にきち  
んと入っていて、大変うれしく思いますし、質の向上をさせていこうと  
いう気概がその文章に感じられます。しかし、その中で、この質の向上  
の取り組みを表現する言葉が、「人にやさしく、ていねいに」では、人  
に優しい景観や丁寧な景観というのがどういうことなのか、理解しづら  
いと感じます。
  - ・仙台はジャズフェスやゴスペルフェスなど、道路上で市民が歌を歌った  
り、演奏したり、聞いたりするイベントが非常にたくさん行われていま  
すが、その人の活動が、その景観とマッチして素晴らしいというのが、  
仙台の真骨頂なわけです。例えばそういう場合に、点字ブロックの上に  
ステージを置かざるを得ないときに、視覚障害者が来たときにどうする  
かということ、主催者や演奏している人たちが考えながらやるという  
ことが、まさに街が人に優しくなるという瞬間を引き出しているとい  
うことだと思います。景観を形成するハードのほうが人に対して何かをし  
てあげよう、行政サービスしてあげようという感覚で景観をつくる取  
組みをやっていくと、本末転倒ではないかと思います。
  - ・つまり、人の優しさを引き出していく景観づくりをするという、その視  
点の方向性をここできちんと示す必要があるのではないかと思います。  
「人にやさしく、ていねいに」という言い方は、上から目線のような感  
じが少しします。市民自身が景観の質の向上を一緒にどうやっていこう  
かという、そういう皆さんの自主的な活動を引き出すような取り組みを  
やろうというのがこの案だと私は感じているので、「人にやさしく、て

いねいに」の部分は、別な言葉に変えたほうがいいのではないかと感じています。

- ・いい景観というのは、歩いている人やそこで憩っている人が、粋でおしゃれに見えたり、人がいて絵になるということ。そのようなシーンが実現されることが、目指す景観のイメージになるのではないかと思います。
- ・先ほど巖委員がおっしゃったように、私もエレクトロンホール宮城や宮城県美術館に関しては、今の機能が中心部から失われてしまうということ、非常に懸念しています。県が今標榜しているものが効率や秩序などを求めている、芸術的な活動に対しての配慮が全く感じられません。万が一、そういう県の意向が実現したときには、移転した跡地の利活用に関して、ただ単にどこかの企業がマンションを建ててしまったりしては、まちの衰退につながりますし、観光客にとってのまちの魅力や価値が非常に落ちていくと思います。それを仙台市がどこまでできるのか本当に難しいことだと思うのですが、市民の皆さんと大いにそこを考えていかなければいけないだろうと思います。
- ・アート活動で中心街を活性化するというのを、私もまちの維持のために実際にやっているのですが、そのようなイベントを行うことによって、広場の中に人が入って、人がどんどん活動を次々と生み出していき、景観を変えていくさまを見ているので、そういう人のアーティスティックでクリエイティブな活動を引き出すということが、景観をつくっていくのに私はとても重要だと思います。宮城県内の芸術的な施設の動きというのは、20年～30年ぐらい前の感じがしていて、本当に心を痛めております。ぜひこの審議会でも常に関心を持っていきたいと思っています。

堀会長 ・「人にやさしく、ていねいに」の部分をも具体的にどう変えると良いでしょうか。

吉川委員 ・後で考えますが、人の優しさを引き出す、あるいは人の活動を引き出すという、逆のベクトルの言葉がいいのではないのでしょうか。

馬場委員 ・景観総合審議会ということで景観に特化したところがもちろん書いてあり、項目としては概ね良いと思うのですが、これを本当に実行するのであれば、行政の横のつながりが絶対に外せないだろうなと思って拝見しております。

- ・私が今関わっている仙台城跡保存活用計画等検討委員会でも、当然同じような議論をしていて、これからの活用方法について議論している中で、

安全・安心がとにかく大事だろうという意見が出てきています。そのあたりをもう少し文字で表すなり、「はじめに」に記載するなど示したほうがいいのではないかと思います。

- また、今年は特に自然災害が非常に多い年でしたので、そういった角度からも、市内をよく見るための定期的な点検についても、文言として入れてほしいと思います。
- その際ですが、市民協働という言葉が出ていますけれども、市民の皆様のお力も大事かと思えます。例えば、屋外広告物部会などでも話題に出たザ・ビラトルズという団体。要はまちの美観を損ねている「はり紙」「はり札」「立て看板」を取り除いていただく市民ボランティア制度で、そういった市民活動をする方たちをザ・ビラトルズに認定し、用具をお渡しして、あとはもうご自分の時間で、時々見回ってビラ等を取っていただくというような制度なのですが、それを始められてから数年でビラ等がなくなってきたという話をお聞きしました。その団体が、そのままこちらのほうの活動をしていただくかどうかは検討が必要ですが、市民協働といったときには新しいものをつくる、その際に集めたアイデアでワークショップをするだけではなく、そういう協働の仕方もあるのではないかと思います。
- あとは景観といっても、観光用ではなく、リピーターを増やすというところが一番大事ではないかと思えます。先日、とあるアーティストのコンサートが、あすと長町にある会場で開催されていたのですが、憩う場所がないのか、コンサートを待っている姿は、余り楽しんでいるようには見られませんでした。七夕、ジャズフェス、光のページェントなどだけではなく、そういうことでも憩いの場所をとにかくつくる、それからお店と一体化したような景観をつくっていくということは重要だと思います。また、県内でイベントのあるときには、宿泊施設がないので、仙台に必ず来るというような動きをしています。仙台市は、年間を通じて観光客の方が1日、2日いらっしやっているような非常にラッキーな都市だと思いますので、そのようなことも考慮し、ぜひ観光課などと垣根を越えて、行政側の協力もお願いしたいと思えます。

堀会長 ・他にいかがでしょうか。

不破委員 ・定禅寺通、青葉通、宮城野通をシンボルロードと定めて、そこに人があふれていくような都市にしたいという気概みたいなものは大変よろしいかと思うのですが、なぜこの中に仙台の重要な資源であるアーケードの

話が入っていないのでしょうか。

- ・都心部で実現したいイメージの中に、その1、ケヤキ並木。その2、アーケード、そして新しいシンボルロードとしての3つの通り。とした方がいいのではないのでしょうか。青葉通については特に、青葉通に人を出すのではなく、青葉通と平行して走るアーケード街と青葉通をどのように関係性をつけるか。つまり青葉通に隣接している建物が、その背後にある、あるいは本来はそちらが表なのですが、その背後にあるアーケードの人々をどのように青葉通側に導くのか、こういう議論を本来はすべきで、そうするとアーケード街にあるお店が重要になってきます。アーケード街の規制をしないと、例えばパチンコ屋さんや、大きなドラッグストアなど、都市に文脈のない残念なお店が増えていくわけです。本当にそれでいいのかというような議論は、この景観総合審議会の中でも当然触れられるべき話なのかなと思って聞いていました。特に、実現したいイメージの中にはアーケード街を入れるべきなのではないのでしょうか。

堀会長 ・事務局のコメントをお願いします。

事務局 ・足りない部分についてもご意見をいただければ、それも検討し、加えていきたいと考えております。

堀会長 ・実際には実効性のない景観計画はあり得ないので、何がやれるのかという事を見極めなければいけません。アーケードや商店街が重要だというのは非常によくわかりますが、実際にどういう規制をかけるのか、また、どういうインセンティブを働かせるのか。これはなかなか知恵の要ることです。

- ・どうして3本の通りなのかというと、選択と集中で施策を実行したほうが、やりやすく、有効であるからです。シンボルロードの3本以外のほうが広いのではないかといたら、全くそのとおりです。しかし、全部やるというのは何もやらないにつながりかねないので、なかなか難しいところがあります。この景観総合審議会は、今までの景観施策から大分転換しようとしております。今、事務局から何でも不満を言ってくれという心強い話がありましたので、検討して、検討した結果どうなるかというのは私も見極めがついておりませんが、少なくとも今日は色々な意見を出していただくということによろしいのではないかと思います。

不破委員 ・アーケードは特に、重要な道として位置付けられるべき通りといえます。

3本の通りを重要だと考えるのであれば、アーケードの話と先ほど話題に出た通り沿いにある文化施設の話も、やはり除けない話だと思います。

- 菅原委員
- ・施策の見直しの方向性③のところで、通りを歩く人にとって魅力的なという文言がありました。通りを歩くというのは様々な年代、女性、子供などの様々な目線も必要ではないのかと思うので、その辺を書いていただと非常に理解しやすいのではないかと感じました。
  - ・その上の道路や公園などの公共施設について、今までは規制が余りにも多く、自由に使えませんでした。その規制を外すと、実は人っている色々な楽しみ方ができるので、その規制をこういう形で外しますよなど、そういう実験をしたら楽しいのではないかと思います。
  - ・以前のお話の中で、仙台城が暗いという話がありましたけれども、私、初めて仙台城の駆け上がりというのを2年前のイベントでやりました。そのときは仙台に仙台刈りというヘアスタイルがあって、その仙台刈りをした人を仙台城に登城するイメージで上らせて、伊達男ナンバーワンを決定するというイベントでした。いろいろな視点や使い方を変えることによって、場所って変わってきます。先ほど吉川委員がおっしゃったように、いろいろな使い方をして人がそこに集ってきて、新たな使い方ができる。それで賑わいができるというのが、まちの楽しさではないかと思っています。その辺はどのように考えていますでしょうか。
- 事務局
- ・別紙3の都市空間の質の向上の③に関してそれぞれどのような目線なのかというご意見についてですが、これについては子供の目線もあるし、当然おじいちゃん、おばあちゃん目線もあります。あとは仙台に住んでいる人の目線もあるし、遊びに来た人の目線というものもありますので、色々な目線だと考えております。人と通りとの関係性が少ないと、結局、魅力が発生してこないということもあります。この辺のお話は、堀会長のほうが詳しいかなと思うのですが、いわゆる三種の神器みたいな形で、挨拶をするところから始まって、応対するというような、そんな店の表情づくりも重要なのではないかと考えています。そういう表情があって魅力的なお店がどんどん増えていくと、通りとしての魅力もアップしていくのかなと考えております。
  - ・通りの魅力がアップしていくためには、当然、公共側で整備する道路や歩道なども質を高めていかなければいけません。それと連動するように、通りを歩く人が座っていいよ、というような優しさが感じられるベンチが店先に置いてあって。また、ベンチに座った人々が、お店で何かお買

い物していく、という感じで、ベンチ1個置いただけでお店の売上げが伸びるなど、そのような事例が出てくるといいのではないかと考えております。

小林委員 ・大前提の確認をしたいのですが、この提言書は誰が見るものなのでしょうか。

堀会長 ・これは審議会の提言ですから、市長に対してだろうと思います。こういうふうには仙台市の景観施策をされてはいかがですか、という審議会から市長に対しての提言です。

小林委員 ・わかりました。提言書の「はじめに」のところですが、誰に対しての言葉なのかと思っていました。緑が、という緑の強調はいいのだろうと思うのですが、実際には四季がありますので、緑を植栽などという言い方としたほうが年間を通して設計する人にも、良いのではないのでしょうか。緑が、と言われると常緑樹と限られた印象となってしまうので、植栽と言われたほうが幅が広がっていいのではないかというのが一つあります。

・それから、委員の方々の話を聞いておまして、この「はじめに」のところでもいいのか少し疑問ではありますが、景観を誰がつくるのかというところで、市だけがつくるわけでもないということなのでしょうから、建物だけではないし、屋外広告物だけでもないし、オープンスペースとかそういうだけでもない。市民協働でという、みんなで景観をつくる、みたいなものがあったらいいのではないかと考えました。

・それから、今までの話の中で、オープンスペースとベンチという話が何度も出てきたので、そこだけに集約されたら嫌だなという気持ちもあります。3番の(1)のところもオープンスペースというのが何度も出てくるので、表現を変えてもいいのではないかと考えておりました。

堀会長 ・具体的にはどのように変えたらいいのでしょうか。

小林委員 ・具体的には、この1、2、3、4、5番、今までの経緯を追ってきたそのままここに出ているかと思うので、多分その提言を別に具体的に書かなくてもいいのであれば、市民の過ごし方や、見え方など、何かそういうまとめた言い方でもいいのかなと、少し視点を変えると違うのかなと思います。

堀会長 ・他にいかがでしょうか。

- 稲葉委員 ・普段、仙台市内で生活をして、いろいろなイベントに参加をしている立場からの意見を述べたいと思います。施策の見直しの方向性の今後の課題3のところ、定禅寺通、青葉通、宮城野通の魅力をさらに高める取り組みが必要ということで、他に路地や郊外の風景もあるというご意見も確かにあって、それは確かにそうなのですが、今現場にいる立場からすると、結構いろいろやっている市民の人たちというのは、みんなが頑張っているのですけれども、余りたくさんはできないなというのはすごく感じています。先ほど会長がおっしゃっていたのですが、実際にできるものと考え、「この3つを中心とすること」や、「この3つの通りを優先順位をつけて」など、そのような表現にしていればいけないかと思っています。
- ・それから2番目ですが、今後の課題の4のところ、都心部など街並みを人の関わりによって、より魅力的なものとしていく取り組みが必要ということで、これも結局、場所以外に人が必要だということであると思うのですが、割と内々から見ていると、いろいろなことをやっている人というのは、同じ人が一生懸命頑張っているというのが仙台の実情かなと思っています。より魅力的なものとしていくために公共空間やオープンスペースを有効に使うことのできる仕組みということで、使いやすくする仕組みや支援などということが書いてあるのですが、この中に使うことができる人材を育てるような取り組みや、新しい人材を発掘するような仕組みなど、何かそういうものをつけていただけると、もう少しいろいろなことができるのではないかと思います。
  - ・定禅寺通やその他の通りも、まちづくり協議会や、有志の団体がイベントを開催したり、非常に活性化しているなということは感じているのですが、裏に回ってみますとほぼ同じ人が頑張っているというのが仙台の実情なので、そういった人に関わる場所では新しい人材の発掘につながるような、そこが課題の7につながるかと思うのですが、そういった表現も入れていただけるといいのではないかと感じました。

堀会長 ・他にいかがでしょうか。

- 舟引委員 ・大丸有のデザインガイドラインに、15年ほど前に少し関わっておりました。そのときに書いた絵、ガイドラインが15年経って今ようやく実現してきて、なかなかとびきりの空間になってきたところですので、こう

いうものには時間がかかります。どうしてこの人たちがそういうプランをつくって、こんなに大胆なことを実施してきたかという、お金を稼ごうとしてきたという動機が一番の根底にあります。ここの地主さんたちが自分たちでルールをつくって、そのとおりに開発していく。今の言葉でいうとエリアマネジメントという言い方をしますけれども、もっとさまざまな開発行為を行うことによって、もちろんそのときに容積率の緩和も使ったりしているのですが、今回の都心再構築プロジェクトが容積と連動させるという形であれば、これは実は地べたのデザインガイドラインとセットにしないと、実は余り意味をなさないものとなります。前回の都市再生特区、仙台でやった事例は、ほとんど容積だけ食い逃げされて魅力的な空間が残ってないというのが正直な感想です。それをきちんとやらなければいけません。お金を儲けるというと下世話ですが、仙台市が全体として経済が活力を増さなければいけない、そのために景観などを手段として使う。そのように発想していただくといいのではないかと思います。

- 先ほど定禅寺通活性化協議会の話があり、どうして駅にばかり人が集まって、定禅寺通に人が集まらないのかという話がありました。でも実際には、そんなことはないのです。外から来た人は、必ず定禅寺通を見に行きます。この話があったので、学生に聞いてみたところ、みんな駅に行きますと答えました。これは当たり前の話なのです。駅のほうが床が新しく、新しい商業床があったら、若い人が行きたいものが集まっているので、そちらに行きます。では、定禅寺通にそういうおもしろい床が出てきているかという、ほとんどないし、国分町の飲み屋さんとはともかく、せんだいメディアテークには若い人がたくさん集まってはいますが、そこから外に出ていくだけです。これはイベントの問題ではなく、おそらく商業の構造そのものの問題が大きいので、古いビルの建て替えのときに、どのように考えていくかということまで含めてやらないと、商店街の活性化というところにはつながりません。そのときに、本日、議論になっている外部空間というのは何かというと、中の商業ビルと極めて密接につながっています。だから、大丸有でやっている仲通りもありますが、この床に人を集めるために、その真ん中の通りを活性化し、下に集まった人がそれを、その中の床に誘導する、という取り組みが大事となってきます。
- 最近ですと、三井のコレドテラスという建築物が二ヶ月ほど前にできましたが、床と外のオープンスペースを一体としたコンセプトで作り、居場所とお金を落としてもらおう場所をセットで作りましょうという感

じのやり方をしています。こういうせつかくの取り組みをさらに、見かけをきれいにするためのプロジェクトではなくて、仙台市に利益をもたらすためのプロジェクトなので、そのためには縦割りが強くてもしようがない部分があるので、そこを何とかしてほしいと思います。また、せつかく都心再構築プロジェクトを動かすのであれば、そこで出てきた容積と交換してできた地面のしつらえをコントロールできるように、判断できるだけのノウハウを市の内部が持たないといけません。それが一番大きな課題です。そのためには市の中に建築や造園などのいろいろな技術屋さんがあるので、継続的にそういう儲かるような視点を持って見続けるというようなプログラムまで含めて、この提言書などに盛り込めばいいのではないかと考えます。余り露骨に書けるものではないのは承知しておりますが、少なくともそういう都心再構築へ向けての戦略と戦術を、かなり急いでつくらないと間に合わないことになりかねないので、そこに重点を置いてほしいと思います。

- 杉山委員
- ・公園のことについてお聞きしたいのですが、先ほど青葉山の公園整備が進んでいて、公園センターができるというお話を伺いました。先ほど南池袋公園の事例も出ましたが、南池袋公園は、公園でもカフェが入っており飲食営業ができるというように仕組みを変えて、遊べる場所と、芝生で入っていいエリアを決めるなど、使い方も変えて取り組まれたということで、人がたくさん集まっています。お金を使いたくない人はお弁当を持ってそこで遊ぶですとか、カフェも利用するなどしておりますが、仙台市でもそのような取り組みがあるのでしょうか。今回の公園整備や公共空間、オープンスペースの有効活用についても、実際にそういう取り組みに向かっていくということをお書きになるのでしょうか。
  - ・公園のベンチ等の整備やカフェの設置など人を呼び込もうということでお金をかけて取り組まれるようなことがあればお聞かせください。
- 計画部長
- ・公園の話ですので、完全には把握しておりませんが、最近の公園行政の中ではパークPFIといって、民間の資金を使って整備をしつつ、賑わいのある場をつくっていきこうという動きを始めたばかりですので、これからそのような動きは広がっていくのかなとは思っております。
  - ・青葉山公園については、まだそこまでの段階には至っていないということもあり、今後の整備に当たっては今後の議論になるのかと思います。
- 舟引委員
- ・青葉通を真っすぐ西に行くと、大橋を通過して追廻の地区に当たります。

追廻の地区の再整備計画は、最先端のワークショップを行い、プランニングしていますが、それとこの場が全く連動していないというのが、結構大きな問題だと思います。青葉通を活性化すると言っても、青葉通をどうしていきたいのかというところを何も議論をしてなくて、それで活性化するんだということ自体が、ほとんど意味をなしていません。都市マスタープラン等様々なものを見直す良い機会なので、ぜひ各局の取組みを有機的にうまく繋げていただきたいです。

堀会長 ・他にいかがでしょうか。

不破委員 ・評価検証から得られた今後の課題に、道路や公園などの公共施設の質の向上をさせる取り組みが必要と書いてあるのですが、「ていねいな空間づくり」というのを考えたときに、例えば道であるから、そこは車優先ではなくて歩行者優先で盛り上げていこうという言い方は、それは仙台にとって本当に丁寧な言葉遣いなのでしょうか。例えば東京の南池袋公園と、仙台の大町西公園は同じなのでしょうか。これから追廻地区にできる公園もそうですが、南池袋公園のパークPFIの事例を参照するだけでよいのか。場合によっては駐車場の位置や、駐車場と郊外の関係性を丁寧に考えることなど、車を都市内に入れながら、どのようにそれをさばっていくのか。一方で、歩行者優先のアーケードや歩道をどう関係性を持っていくのかということ丁寧に考えるということが、東北地方の中心である仙台にとっての丁寧な公園と道の関係性をつくることだと思うのです。

・仙台における車の存在は、恐らく排除できないはずなのです。それは当然ですけれども、郊外及び仙台の近郊の都市圏と仙台を結びつける重要な役割を果たしているのは車です。これからは車なんて要らない社会だから、仙台には車なしで、歩行者優先のまちを考えようというのは、実は丁寧ではなくて乱暴な意見なのではないかと私は思っています。もちろん様々なご意見があると思いますが、そこは、車なしという極論にはしり過ぎずに丁寧に吟味していく必要があるのではないのでしょうか。

堀会長 ・恐らくそのように丁寧にだと思えます。例えば、別紙2に元町の写真がありますが、車が道路の真ん中です。車は便利な道具ですので、使われやすく、当然なので、そういうことも全部含めて丁寧に考えていくということだと私も承知しております。他にいかがでしょうか。

厳委員 ・今の話に関して、2040年には高齢化率が40%になりますし、その時代になると、やはり車優先社会になるかと思います。しかし、まちを変えていくのは先ほどの大丸有でも15年かかっていますので、40年後、50年後を見据えて今を考えないといけないと思います。

堀会長 ・使い方というのは、臨機応変に色々な条件で変わっていきます。我々が今議論しているのは、使い方の問題もさることながら、ベースである都市の骨格、仙台市の骨格をどうつくっていくかということです。もちろん骨格というのは3本のシンボルロードではなく、都市全体の骨格をどういうふうにつくるのかという議論をしているわけです。

- ・特に、景観計画は基本的には民間が開発するとき、どのようにコントロールするか、ということが大前提になります。今までは高さを抑えてください、色を抑えてください、というマイナスのコントロール、マイナスをミニマム化する、あるいは未然に防止するという考え方をしていました。それを今後は、開発時にこういうふうによく都市の魅力をつくっていきましょう、と誘導していこうということなのです。人が大事なのですが、景観計画のもとには民間の開発のときにどうするかということなのです。そこをうまく整理して、この提言にまとめる必要があります。
- ・最後にベンチやオープンスペースがなぜ大事なのかについて、少しだけ説明を加えさせていただきます。
- ・まず、景観とは、人が見ることで、建物や、山が景観ではありません。人間は見て、そこから情報収集し、その情報から、ここはいいところだ、また来てみたい、あるいは今度は家族で来ようなどと、行動の判断に使っています。その前提として、いいところだ、悪いところだ、と景観を評価しています。これが景観の重要性です。
- ・景観の評価は人によって異ならず、人間の評価は非常にシンプルで、誘う形をプラスに評価し、拒む形をマイナスに評価する、たったこれだけです。
- ・我々は何を見ているかというと、自分に一番近いところ、街にいる場合ですと、見えているところのほとんどが建物の1階部分なのです。1階部分に誘うようなメッセージが出ていると、人間はプラスに評価しますし、非常に効くということがわかっています。
- ・街は道と沿道でできていますが、これも自分により近い道のほうが街の評価に効きます。人を大事にしているように見えていることが非常に重要で、特にベンチ、休憩スペース、これはあなたを歓迎します、という

メッセージとなり、景観の評価に強く影響します。それもただ設置するだけではなく、人のための配慮が見てとれるような形にしていくということが重要だと思っております。

- 休憩スペースを不特定多数がたくさん集まれるようにしたものを回遊拠点とって、これを戦略的に、例えば商店街の端と端に入れると、自然とそこを歩くようになって、回遊がそこに生じるということになります。たくさん休むところをつくと、当然人は居つくので、我々はベンチ、休憩スペースもさることながら、そこを楽しんでいる人の姿に誘われます。
- 私たちは、楽しいところに行ってみたいと思うものです。その楽しいところというのが具体的に何なのかが分かれば、大分やりやすくなるわけです。ベンチ、休憩スペース、回遊拠点。人を本気で大事にしますよというメッセージが出る場所をつくり、そこに人が居ついて、楽しそうになっていて、人が人を呼んでいるという現象が起こる。そういうものを目指したらいいのではないかと思っています。

## 6. 閉会